

(积文)

昨十三夜、於薩埵山

敵夜懸之刻、敵壺人

針宇文六と合討、高

名感悦候、弥可竭粉

骨者也、仍如件

永禄十二年己巳

三月十四日 (花押)

多田新十郎とのへ

(読み下し)

さくじゅうさんよる さったやま

昨十三夜、薩埵山に於いて、敵夜懸の刻、敵壺人

はりうぶんろく あ う

こうみょうかんえつ

そうろう

そろう

針宇文六と合い討ち、高名感悦に候、いよいよ

ふんこつ つく

つく

よ

くだん

ごと

粉骨を竭すべきもの也、仍つて件の如し